

# ラジオ出演や絵本制作で 新たな広報活動を展開

公益社団法人秋田県シルバー人材センター連合会（秋田県） コーディネーター 松橋貞一郎



## 秋田県の概要

令和二年九月一日現在、秋田県の人口は九十五万二千八百四十二人。出生率の低下および若年者の県外流出の高止まりによって人口が大幅に減少し、高齢化率は全国一の三七・九%（令和二年七月一日現在）となっています。

今後も、少子高齢化はさらに進み、労働力人口の減少や地域社会の支え手の不足が、持続的な地域社会・経済活動の大きな足かせとなっていくことが危惧されるため、働く意欲と能力のある人々が、年齢や性別にかかわらず働くことのできる社会を実現することが喫

緊の課題となっています。

とりわけ、豊富な経験と知識を有する高齢者が、本格的な就業から引退後も各自の体力や価値観に合わせた多様な働き方を可能とするシステムの構築が不可欠です。その一翼を担っているのが、シルバー人材センターといえるでしょう。

## シルバー人材センターの概況

現在、秋田県内には二十二のシルバー人材センターがあります。しかしながら、この中で、国庫補助対象外が七センターもあり、組織・運営基盤の脆弱さから、専門的な知識や基盤拡大においてさま

ざまな課題を抱えています。

県内の会員数は一万人を超えたこともありすが徐々に減少し、近年では七千二百人前後で横ばい状態が続いています。粗入会率は一・八%と低い水準にあり、労働力人口の減少に対応し、地域の利用者への期待と要請に応えていくためには、より多くの高齢者が会員として活躍することが大きな課題となっています。

## 「高齢者の就業意識調査」で 厳しい現実が

秋田県SC連合会（以下、連合会）では、令和元年度に「高齢者の就業意識調査」を実施しまし

た。調査結果では、年金受給者の多くはシルバー人材センターで可能な労働時間や賃金を希望しているにもかかわらず、「働く手段としてシルバー人材センターでの就業は考えていない」という厳しい現実がありました。その理由としては、「シルバー人材センターという名前は知っているが、どのような仕組みで、具体的にどういった活動を行っているのかよく分からない」という回答が圧倒的だったのです。

この結果は、地域の高齢者の意識と大きく乖離しているにもかかわらず、従来の情性的な周知・広報活動を続けてきた取り組みに問題があったということ、地域の高齢者の視点から広報活動を行う必要があると反省させられました。調査結果を踏まえた上で、①シルバー人材センターの多様な就業先や就業形態の理解②肉体労働のイメージが強い就業形態からの脱却③生活苦から働いているという



ABSラジオ「あさ採りワイド秋田便」の「シニアの出番」コーナーに、秋田県内のシルバー人材センターで活躍する会員（写真右）が出演。写真左は、司会を務めるフリーアナウンサーのチャーリー・ホイ（保泉久人）さん

イメージの払拭、という観点から検討し、次のような取り組みを新たに実施することになりました。

### 各センターで活躍する会員の元気な声をラジオで発信

「おはようございます。毎月第一・第三水曜日にお送りする『シニアの出番』。このコーナーは秋田県シルバー人材センター連合会が

お送りします。秋田県内のシルバー人材センターに登録、活躍されている方々の元気な声をお届けするコーナー、今回は〇〇シルバー人材センターの〇〇〇〇さんです」。

ラジオから流れてくるのは、会員と秋田県を中心に活躍するフリーアナウンサーのチャーリー・ホイ（保泉久人）さんとの楽しい会話です。

ある調査では、運転中や作業をしながらラジオを聴く場合、六十歳以上ではFM放送より地元のAM放送を聴く機会が多いそうです。当連合会ではこの結果を受けて、

地元のAM放送局・ABSラジオと交渉したところ、「あさ採りワイド秋田便」の中で、九時四十分ごろから五分間の「シニアの出番」コーナーを確保することができました。放送期間は、令和二年五月六日（令和三年二月十七日）の第一・三水曜日です。

放送では、元気に活躍する会員の「生の声」を県内に広く届け、シルバー人材センターへの理解を深めてもらうことで、会員獲得と利用者の拡大を図ることを目的に、情報を発信しています。

出演者は、県内の各センターから推薦してもらうことになりましたが、県民性を考えると出演してくれる会員がいるだろうかと心配になりました。ところが、予想以上に反響が大きく、各センターから積極的に推薦があったのです。

出演者は、センターで携わっている就業の話だけでなく、自分の趣味や家事との両立、元気を保つ秘訣、充実した時間の過ごし方な

ど、活力にあふれたシニアライフについて、素朴ながら実体験に基づいた説得力のある内容を話しています。

## 「ラジオ聴いたよ」と地域で話題に

ラジオ放送の特性上、詳細な聴取者の把握は困難です。

しかしながら、「ラジオ聴いたよ」と声を掛けられたり、会員自身も事前に放送日を周囲の人たちにPRしたりして、地域で「シニアの出番」コーナーが話題になっていったようです。

とにかく、出演者の全員が明るくて前向きな話をするので、聴いている人も楽しく元気になるはずです。

今後、ラジオ番組での会員の話に共感した高齢者がシルバー人材センターに興味を持って入会したり、放送を聴いた企業から発注の問い合わせが増えればと期待しているところですよ。



「シニアの出番」コーナーは、令和2年5月6日～令和3年2月17日の第1・3水曜日、9時40分ごろから5分間放送。司会者との対談形式で、会員が充実したシニアライフを自分の言葉で語っている

## 会員の活躍を孫の視点で描く 絵本を制作してPR

連合会では、令和二年二月に、『うちのあーちゃんの元気のヒミツ』

と題した絵本を制作。これは、角田市SC（宮城県）が「きらりシルバー応援事業」で作成した絵本を参考にしたものです（本誌令和元年八月号「特集〈事例〉」掲載）。

絵本は、シルバー人材センターの働き方を家庭内で考えてもらうため、孫の視点から、会員の活躍と充実した生活の源が「シルバー人材センターで働く」ことであるというストーリー。トートバッグを作ったり、保育士の手伝いをしたり、生き生きと活躍するあきこばつちゃこと「あーちゃ」の姿を、孫の「ふきちゃん」「とうくん」が「ずーごいなあ」友達に自慢しよう」と頼もしい見詰めます。

完成した絵本は、県内のシルバー人材センターに配布するとともに、女性会員の少ない地域へ配布しました。

加えて、秋田県内全域で八ヶ月に、絵本のキャラクターを使用したテレビのスポットCMを流しました。

## シルバー人材センターの 再評価に期待

美郷町SCでは、自治体の教育担当部署と連携して、町内の全小

